

旧公益財団法人九州ヒューマンメディア創造センター 役員・評議員・賛助会員

役員 [8名] 平成30年3月31日現在 (役職順・50音順)

- ▼代表理事
 松永 守央 公益財団法人九州ヒューマンメディア創造センター 理事長
- ▼理事
 二郎丸 聡夫 北九州商工会議所 事務局長
 富高 紳夫 北九州市 産業経済局 企業立地・食ブランド推進担当理事
 原田 信弘 北九州工業高等専門学校 校長
 廣瀬 香 一般社団法人九州経済連合会 社会基盤部長
 松尾 太加志 公立大学法人北九州市立大学 学長

- ▼監事
 石井 佳子 北九州市 会計室長
 間 芳則 ソフトバンク株式会社 広域法人第二営業本部 担当部長

評議員 [8名] 平成30年3月31日現在 (50音順)

- 網岡 健司 特定非営利活動法人里山を考える会 理事
 尾家 祐二 九州インターネットプロジェクト 会長
 柴田 悟 株式会社安川電機 人事総務部 総務部長
 下川 徹 株式会社高田工業所 社長付 地域・経済連携管掌
 東 敏昭 学校法人産業医科大学 学長
 廣渡 健 九州電力株式会社 執行役員 北九州支社長
 前原 典幸 TOTO株式会社 総務本部長
 村上 公幸 西日本電信電話株式会社 北九州支店長

賛助会員 [23 団体名] 平成30年3月31日現在 (50音順)

- 株式会社北九州銀行
 北九州商工会議所
 新日鉄住金ソリューションズ株式会社
 株式会社スピナ
 セイコーエプソン株式会社
 株式会社ゼンリンデータコム
 ソニービジネスソリューション株式会社
 ソフトバンク株式会社
 株式会社ソルネット
 データキューブ株式会社
 TOTO株式会社
 株式会社西日本シティ銀行
 株式会社日鉄コミュニティ 九州支店
 日本電気株式会社 北九州支店
 早原特許技術事務所
 株式会社ビーフロント
 ビズ・コレジオ株式会社
 株式会社日立製作所 九州支社
 富士通株式会社
 安川オピアス株式会社
 安川情報システム株式会社
 株式会社ロココ
 株式会社ワンピシアークイブズ 九州支店

※旧公益財団法人九州ヒューマンメディア創造センター(旧HMC)は、平成30年4月1日付けで公益財団法人北九州産業学術推進機構(FAIS)と統合いたしました。これまで、ご支援、ご協力いただいた皆様に感謝申し上げますとともに、旧HMCの事業を受け継いだFAISに対し、変わらぬご支援をお願いいたします。

HU-DIA 27

ヒューディア Vol.27
 平成30年12月1日発行

ヒューマンメディア財団 情報誌「ヒューディア」

HU-DIA

VOL. 27
 Dec. 2018



ヒューマンメディア財団
 ラストラン

LAST RUN

発行:公益財団法人 北九州産業学術推進機構
 〒808-0135 北九州市若松区ひきの2-1
 TEL.093-695-3077 FAX.093-695-3667



ヒューマンメディア財団のあゆみ

財団法人九州ヒューマンメディア創造センター(HMC)は、情報通信技術を活用し、地域産業の活性化や地域住民の利便性の向上などを目指した活動を通じて、地域経済社会の発展に貢献することを目的として、北九州市や地域の多くの企業の皆様からの出捐を受け、1996年4月に設立されました。

設立以来、HMCは、地域の企業や大学などとの連携を図りながら、様々な活動を展開してまいりましたが、初期の活動の中で特筆すべきものは、八幡東区にHMCの本部となる「九州ヒューマンメディア創造センタービル」を建設したことがあります。このビルは、八幡・東田地区に情報産業の集積拠点を形成することを目的に、北九州市と通商産業省(当時・現経済産業省)の支援を受けて建設したもので、開設当初から多くの企業のオフィスとして活用いた

だき、現在も約200人が働くビジネスの拠点として機能しています。

また、HMCビルが開設した翌年、1999年4月、通信・放送機構(当時・現情報通信研究機構)が、小倉北区浅野のAIMビル内に「北九州ギガビットラボ」を開設しました。この施設は、次世代インターネットの基盤技術などに関する国内最先端の研究活動を行う開発拠点であり、HMCも事務局として数多くのプロジェクトに参画しました。

2002年に策定された北九州e-PORT構想は、その後のHMCの活動の指針となったものです。ADSLや光回線といったブロードバンドが普及し始めた時期に、北九州市と地域企業とが協力して策定したこの構想は、ITサービスを電気や水のように簡単・便利に使える社会の実現を目指すという、時代を

先取りした理念に基づくものでした。この構想による取り組みの結果、北九州市は数多くのデータセンターや大型の情報倉庫、17社にも及ぶコールセンターなどが立地する情報産業の拠点となり、2017年には関連する企業売上高が100億円を突破するまでへと成長してきています。

今日、私たちの日々の暮らしや企業活動の様々な場面において、携帯電話や有線・無線のネットワーク、クラウドサービスなどが利用されるようになり、まさにITサービスを電気や水のように簡単・便利に使える社会が実現した状況になってきています。

こうした状況の中、HMCの組織も2012年に内閣府の認定を受け、公益財団法人に移行したことで、更に公益的な事業を中心とした活動を展開することになりました。また、北九州e-PORT構想も、e-PORT構想2.0へと進化し、その目標も情報集積からICTの利活用による産業振興に軸足を移し、活動を活性化させてきているところです。

HMCは、同じ公益財団法人であり、北九州学術研究都市を拠点として、地域のものづくり産業の振興などの活動を展開する公益財団法人北九州産業学術推進機構(FAIS)と平成30年4月に統合することになりました。その背景には、近年の情報通信技術とモノづくり技術が融合したIoTなどの分野や企業活動の生産性向上などの分野に対応していくためには、両財団が協同して活動する必要があることが挙げられます。また、市の行財政改革の観点からの要請も一つの要因となりました。

現在、旧HMCのメンバーは、FAISの情報産業振興センターとして活動しており、引き続きe-PORT構想2.0の推進などの地域産業の振興に取り組んでいます。

22年間にわたるHMCの活動は幕を閉じましたが、その目的・理念は、FAISの中で今後も変わることなく生き続けていきます。これまでお世話になりました皆様方にも変わらぬご支援をお願いいたします。

1994

- ▶任意団体「ヒューマンメディア創造センター」設立(11月)

1996

- ▶「財団法人九州ヒューマンメディア創造センター」設立(4月)
戸畑テクノセンタービルに事務所設置

1998

- ▶GMD(ドイツ国立情報処理研究所)との協定によりGMD-Japan研究所をAIMビルに設置

1999

- ▶八幡東区東田メディアパークに九州ヒューマンメディア創造センタービル完成、事務所移転(10月)
- ▶AIMビルに通信・放送機構(TAO)北九州ギガビットラボ開設、事務局受託(4月)
- ▶北九州学術研究都市情報システム導入計画策定

2001

- ▶学術研究都市内に研究開発部/統合情報システム推進室/英国クランフィールド大学北九州研究所を設置

2002

- ▶北九州e-PORT構想を発表(7月)
- ▶北九州e-PORT推進協議会を設立、事務局受託(10月)

2003

- ▶e-PORTセンターに全国で初めてLGWANへの接続設備を整備

2004

- ▶LGWAN-ASPサービス実証実験開始
- ▶AIMビルに市民の映像・音楽制作等を支援する「メディア道場」、コンテンツ系企業を支援する「メディアインキュベーター」を開設
- ▶後の北九州デジタルクリエイターコンテストとなるデジタルコンクールin北九州を開催

2005

- ▶「びあフィルムフェスティバル」を北九州に初めて誘致・開催

2006

- ▶デジタルコンテンツ産業育成を目的に、西日本工業大学デザイン学部と業務提携
- ▶第1回北九州デジタルクリエイターコンテスト開催

2007

- ▶総務省九州総合通信局などと共同で、「KIAI」(九州情報通信連携推進協議会)を設立
- ▶北九州e-PORT構想フェーズIIプラン発表(11月)

2009

- ▶「北九州市ユビキタスマール構築モデル事業」を小倉北区魚町商店街で実施

2011

- ▶北九州e-PORTフェーズIIIプラン発表(7月)

2012

- ▶「北九州スマートコミュニティ創造事業」の本格実証がスタート(5月)
- ▶内閣府の移行認定により公益財団法人へ移行

2015

- ▶北九州e-PORT構想2.0発表(4月)

2017

- ▶北九州e-PORTの年間売上が100億円突破

2018

- ▶北九州e-PORT構想2.0フェーズIIプラン発表(3月)
- ▶公益財団法人北九州産業学術推進機構と統合(4月)

1994

HISTORY OF HUMAN MEDIA CREATION CENTER

LAST RUN 2018



平成29年度 活動報告

e-PORT 構想のあゆみと構想2.0フェーズII

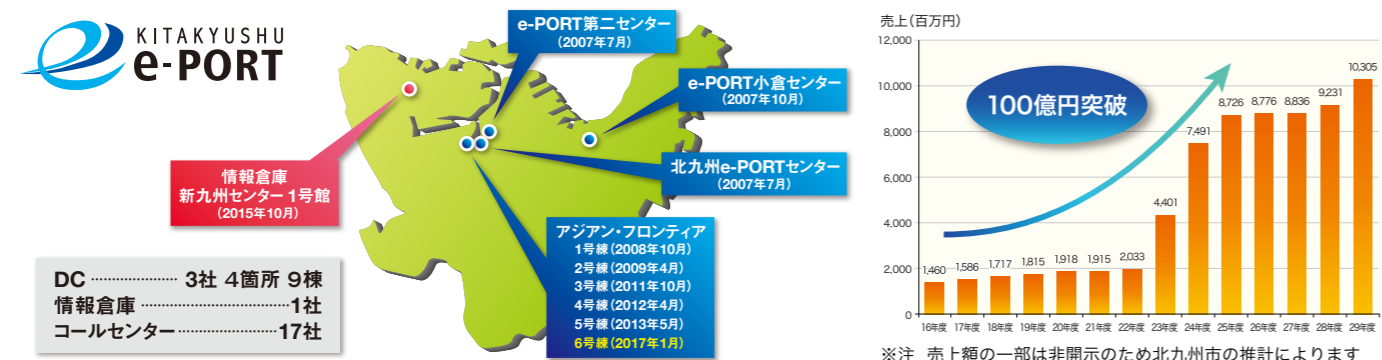
北九州e-PORT 構想のスタート

北九州e-PORT 構想は、海の港(SeaPort)、空の港(AirPort)に続く第三の港として、「情報の港(e-PORT)」を整備し、ICTサービスを電気や水のように、いつでも簡単・便利に使える社会の実現を目指すことをコンセプトとして、北九州市やヒューマンメディア財団、関係企業などの協力のもと、2002年に策定されました。

e-PORT 構想では、北九州地域へのデータセンターや情報倉庫、コールセンターなどの集積を目指し、関連企業の誘致のためのプロモーション活動やセミナーの開催による地域の参加促進など、様々な活動を展開してきました。

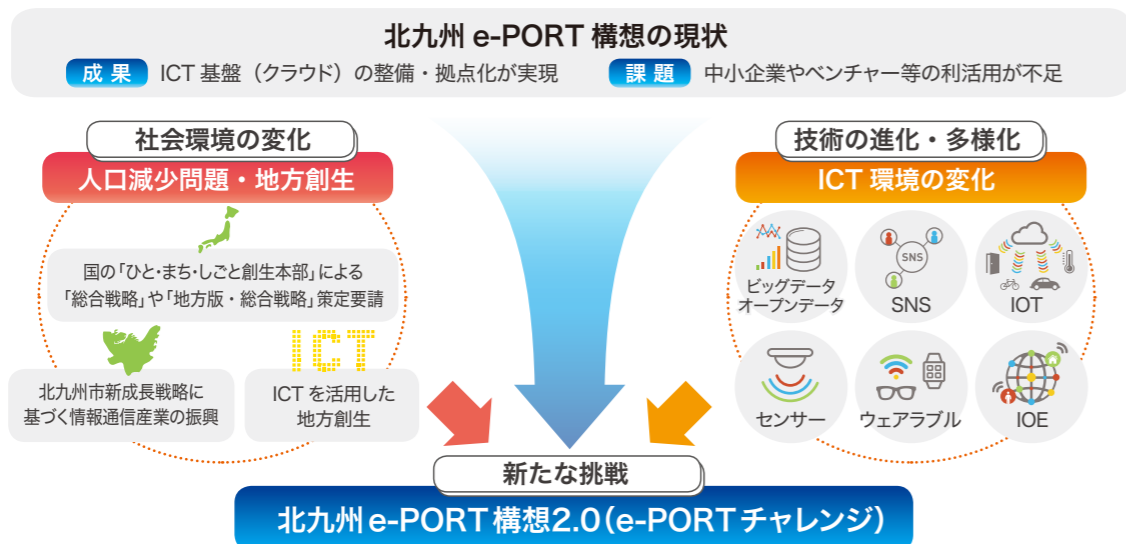
北九州e-PORT 構想による産業の集積

e-PORT 構想による取り組みの結果、北九州市は複数のデータセンターが立地するクラウド拠点となり、紙媒体などの情報を格納する大型の情報倉庫や17社が運営するコールセンターなどが立地する情報産業拠点に成長しました。



e-PORT 構想から構想2.0へ

これまでの取り組みにより集積したICT基盤(クラウド)を活かしなが、人口減少問題や地方創生などの新たな社会課題に対応していくとともに、技術的な進化や多様化を続けるICT環境の変化に対応するため、2015年、北九州e-PORT 構想2.0を発表し、新たな挑戦をスタートすることになりました。e-PORT 構想2.0では、ICTを利活用し、地域課題をビジネスの視点で解決していくための仕組みである「e-PORT チャレンジ」の取り組みを強化し、北九州市発の成功モデルを発信していくことを目指しています。



e-PORT2.0 の全体像

e-PORT2.0では、新規ビジネス創出に取り組む企業などが事業主体者となり、技術シーズの活用や地域課題の解決のためのビジネスモデルについて、ヒューマンメディア財団が事務局となる北九州e-PORT 推進機構に相談持込等を行い、e-PORT パートナー等とのマッチングや事業化をサポートする各種の支援メニューを活用しながらコンソーシアムを形成し、事業体へ発展させていきます。



潜在的な地域課題(ニーズ)の発掘や地域企業等が保有する技術スキル(シーズ)情報の収集、e-PORT2.0のスキームを活用した新ビジネス創出の支援などのため、e-PORT 交流会や外部イベントへの出展等の様々な機会を通じて事業相談の持ち込みを呼びかけたところ、26件の持ち込みがありました。持ち込まれた案件については、個別にヒアリングを実施し、必要な支援等を行っています。

事業相談持込案件の内訳

年度	新規事業	補助金申請支援	販路拡大支援	イベント関連	技術紹介	マッチング支援	合計
H27年度	9件	5件	3件	2件	2件	1件	22件
H28年度	21件	3件	5件	1件	1件	6件	37件
H29年度	8件	3件	1件	4件	1件	9件	26件
合計	38件	11件	9件	7件	4件	16件	85件

事業提案持込みの主な事例 (平成29年度)

- ① データセンターにおけるバッテリー監視システムの構築
- ② 文科省「enPiT-Pro」事業提案支援
- ③ 軽度認知症(MCI)対応機器を活用した北九州市内における事業展開
- ④ 猫の性格を持つ会話型ロボット開発と見守りサービス事業の立ち上げ

e-PORT パートナー 一覧 ※非公開希望除く(平成30年3月31日現在)

e-PORT2.0に基づき、地域課題解決を目指す支援対象者へのサービス提供や支援メニューの充実を図るため、産学官民金のパートナー候補となる企業・団体等を訪問し、広く加入を呼びかけた結果、平成30年3月末時点において、パートナー数が112団体(純増18団体)に増加しました。

産業界	官公庁	学術機関	金融機関
株式会社安川情報九州 北九州e-PORT イニシアティブ 新日鉄住金ソリューションズ株式会社 安川情報システム株式会社 ミシマOAシステム株式会社 株式会社インフォメックス ソフトバンク株式会社 西日本電信電話株式会社 有限会社BOND 株式会社高田工業所 ソフトバンク・テクノロジー株式会社 株式会社安川電機 システムエース株式会社 株式会社タイズ 株式会社ワイズ・コンピュータ・クリエイツ ひまわり社会保険労務士事務所 株式会社ドワーフテクノス 株式会社芝川商店 リンクソフトウェア株式会社 株式会社IDC フロンティア エアドライブ株式会社 株式会社ソルネット 株式会社アドックインターナショナル	合同会社顧客の声 活用社 株式会社佳音 株式会社コア 田中工業株式会社 株式会社ビー・エス・エス 株式会社ランテックソフトウェア 株式会社日本統計センター ビーフラッツ株式会社 システージ株式会社 富士ゼロックス福岡株式会社 N.GROWTH株式会社 JBSテクノロジー株式会社 ビズ・コレジオ株式会社 株式会社プロフェッショナルパートナーズ エスオーエス株式会社 株式会社クラウドコンサルティング 至誠法律事務所 YK STORES株式会社 株式会社ウフル 富士通九州ネットワークロジーズ株式会社 株式会社日立製作所 Houyou株式会社	株式会社インターネットイニシアティブ 株式会社アスキング 株式会社Windy エアテック株式会社 株式会社システムトランジスタ 株式会社タグワン Tanosy Japan Inc. 株式会社ブラガアジェネティクス 株式会社コンピュータサイエンス研究所 株式会社コムクリ 合同会社Next Technology 株式会社Skeed 北九州高速鉄道株式会社 株式会社テイクオーバー 株式会社クアット 株式会社レッドマルスADベンチャー 一般社団法人IT&診断支援センター 株式会社CROSS FM 東京エレクトロニクス株式会社 株式会社フロイデール 株式会社ロココ 京セラコミュニケーションシステム株式会社 双日九州株式会社 株式会社テクノネットワーク	九州総合通信局 北九州市 産業経済局産業政策課 産業経済局新産業振興課 産業経済局中小企業振興課 保健福祉局健康推進課 保健福祉局認知症支援・介護予防センター 建築都市局画整理課 総務局情報政策課 企画調整局地方創生推進室 福岡県ベンチャービジネス支援協議会 九州経済産業局地域経済部情報政策課 公益財団法人福岡県中小企業振興センター 公益財団法人北九州市観光コンベンション協会 独立行政法人中小企業基盤整備機構 九州本部 公益財団法人ハイパーネットワーク社会研究所 公益財団法人北九州産業学術推進機構
特定非営利活動法人ふくおかNPOセンター 一般社団法人無人機研究開発機構 北九州女性創業支援 ひなの会	山口キャピタル株式会社 株式会社福岡銀行 福岡ひびき信用金庫 株式会社北九州銀行 株式会社西日本シティ銀行 ひびしんキャピタル株式会社	学校法人産業医科大学 公立大学法人北九州市立大学 北九州工業高等専門学校 公立大学法人九州歯科大学 社会起業大学・九州校 国立大学法人九州工業大学	山口キャピタル株式会社 株式会社福岡銀行 福岡ひびき信用金庫 株式会社北九州銀行 株式会社西日本シティ銀行 ひびしんキャピタル株式会社
パートナー数:112団体 (産:74,学:6,官:19,民:7,金:6) ※上記数は非公開希望を含む			

地域課題の収集・発掘

北九州みらいのビジネス創り対話会

「北九州みらいのビジネス創り対話会」は、対話の中から生まれる気づきやアイデアを具現化していくことで、地域課題を発掘・収集し、ビジネスのテーマを特定しようとするものです。

平成29年度は、全6回、のべ322名の方々に参加いただき、みらいのビジネス創りに向けて熱心な対話が行われました。対話会で提起されたテーマ11件のうち9件が、ビジネスモデル・キャンパスに具体化され、みらいへのビジネスの卵となりました。対話会終了後も、共感するメンバー同士が自主的に集まり、引き続き議論を深めています。



北九州みらいのビジネスプランコンテスト2018

様々な地域の課題をビジネスの手法で解決するためのビジネスプランを募集する「北九州みらいのビジネスプランコンテスト2018」を開催し、幅広いテーマとアイデアあふれる内容のプラン13件が集まりました。

審査員の厳正な審査の結果、一次審査(書類選考)で8件(内、対話会から4件)、二次審査(プレゼン)で4件のプランが選ばれ、3月のe-PORT交流会でのファイナルプレゼンでグランプリ/準グランプリおよび各企業賞(内対話会から1件)が決定しました。

財団としては、今後、これらのビジネスプランが現実のビジネスにつながるようサポートして参ります。



ファイナリストとプラン名

応募者	プラン名
株式会社 ハチたま	【北九州から世界へ】世界初!おうちでできる、ねこヘルスケア「TOLETTA(トレッタ)」
歯っぴー株式会社	人生100年時代に必要な歯磨きサービスの提案
IT&診断支援センター・北九州	猫好き独居高齢者の生活を支援する先進的見守りシステム
ltohen.M	日本の伝統文化や故人を想う気持ちを伝える布をアクセサリーに加工し、未来へ伝えていきたい

ビジネス化支援

新ビジネス創出支援補助金

e-PORT2.0では、新規ビジネス創出に取り組むベンチャー企業や中小企業、大企業によるR&Dなど、事業主体者を支援します。

事業主体者から北九州e-PORT推進機構への相談持込や技術シーズの紹介をもとに、産・学・官・民・金のe-PORTパートナーや地域事業者とのマッチングや実証実験のコーディネートなどを通じ、複数企業・団体による事業共同体(コンソーシアム)の形成を支援し、オープンイノベーションを促進します。

こうして形成されたコンソーシアム内での実証実験やビジネスモデルの確立に利用可能な「新ビジネス創出支援補助金」の交付などを通じて、事業化をサポートします。

調査研究支援・実証支援補助

上限
100万円
(補助率2/3)

北九州地域において、将来的にビジネス化することを見据えた調査、研究、実験、実証等の取り組みを支援

対象事業者 個人・企業・団体 or コンソーシアム

事業化支援補助

上限
500万円
(補助率2/3)

北九州地域において、新ビジネスの創出に必要となる商品やサービスの開発、ビジネスモデルを確立するための仕組みの構築等を支援

対象事業者 コンソーシアム

採択案件一覧

詳細はWEB ▶ <http://www.e-port.gr.jp/grant.php> を参照

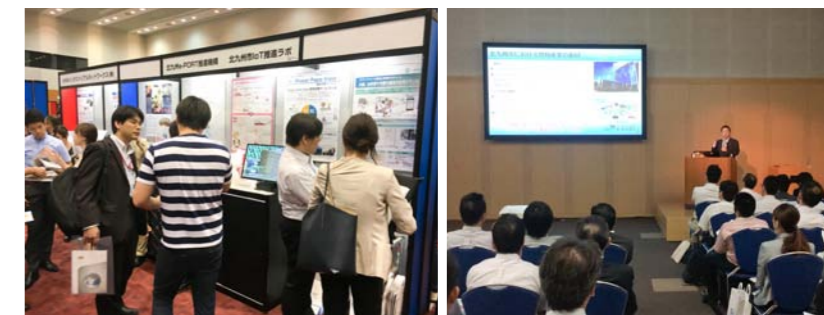
	代表事業者	申請事業名
1期	株式会社ギラヴァンツ北九州	にぎわい実証事業
	リンクソフトウェア株式会社	えいのうのいえ実用化事業
	株式会社コンピュータサイエンス研究所	Pepper 向けアプリ「ロボナビ MAP」ビジネス化のための北九州地域におけるコンテンツ調査
2期	株式会社インターネットイニシアティブ	薬剤適正化プロジェクト「くすりのリスク」
	株式会社コア	北九州市立小学校向けプログラミング教育事業
	ミシマ・オーエー・システム株式会社	バッテリー監視システム「らくでんち」開発ステップ1
3期	産業医科大学	北九州市へのJ-SPEEDサーバ誘致によるデータ活用事業

プロモーション支援

IT Pro EXPO 2017 in 九州

e-PORT2.0の取り組みや、具体的な事例の紹介、パートナー企業の販路拡大のために、九州最大級のICTイベントIT Pro EXPO 2017 in 九州に出展しました。セミナーでは、「IoT新時代～北九州市IoT推進ラボ～」と題して、北九州市IoT推進ラボの活動や北九州をフィールドに、地域の課題解決に向け取り組んだ事例についてご紹介しました。

会期:平成29年6月20日(火)～21日(水) 会場:福岡国際会議場
内容:ブース展示、セミナー講演 総来場者数:3,722人



CEATECH JAPAN 2017

全国規模の展示会 CEATEC JAPAN 2017において、独立行政法人情報処理推進機構(IPA)が企画した地方版IoT推進ラボブースに北九州市IoT推進ラボとして出展し、北九州市でのビジネス展開や、実証フィールドとしての活用などについてPRしました。

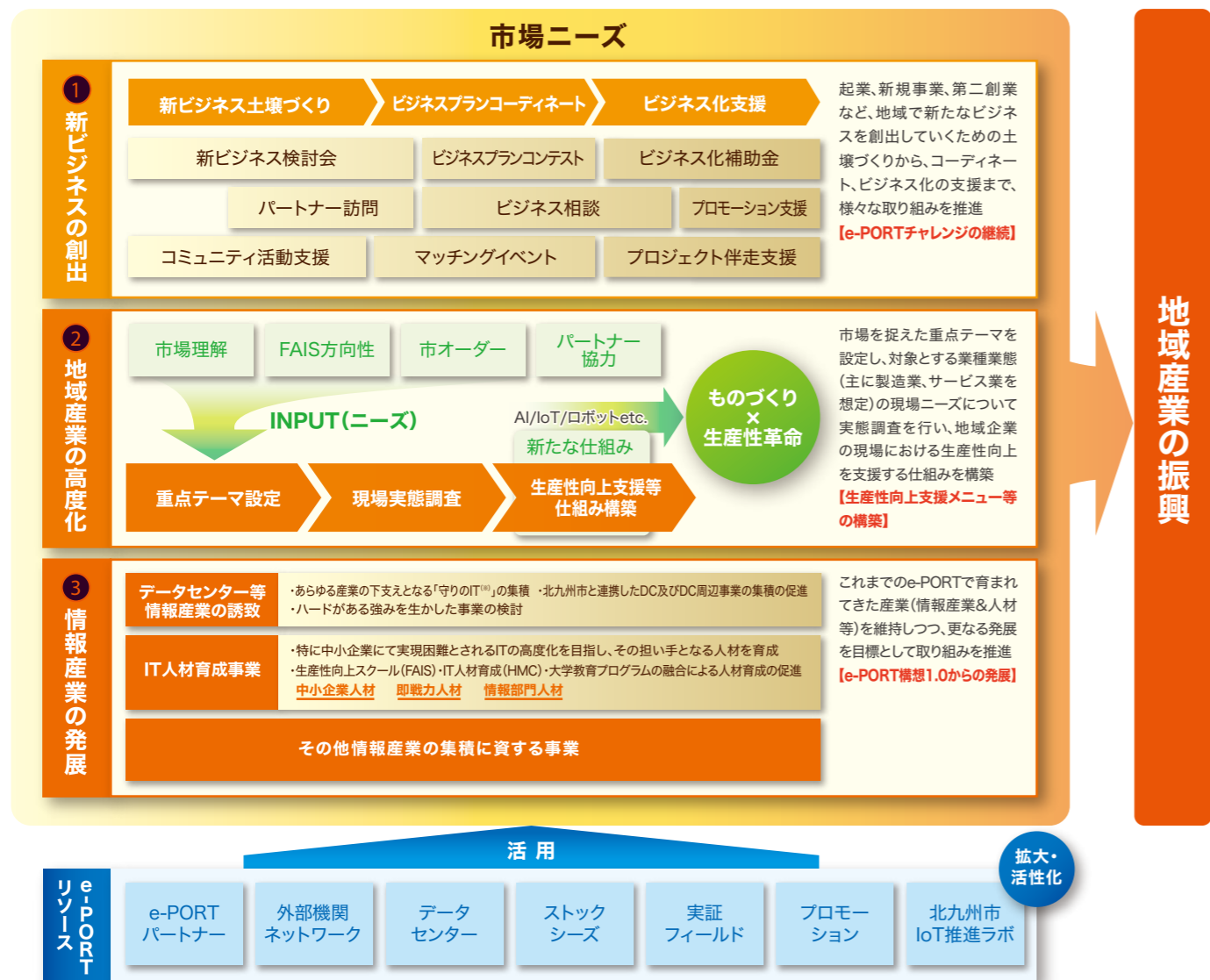
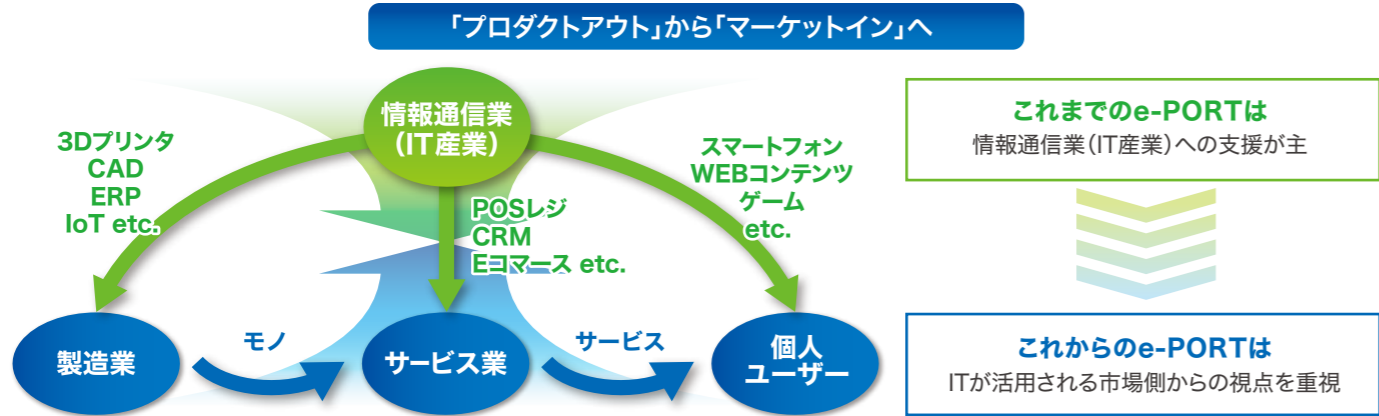
会期:平成29年10月3日(火)～6日(金)
会場:幕張メッセ
内容:ブース展示、セミナー講演
総来場者数:152,066名



e-PORT 構想2.0フェーズⅡへ

e-PORT 構想を推進する事務局であるヒューマンメディア財団は、2018年度より、公益財団法人北九州産業学術推進機構に統合されることとなりました。これまでのノウハウが蓄積された体制を維持しつつ、組織統合によって更なるシナジー効果を発揮させ、本構想を一層、進化させることにより地域産業の発展に向けた新たな段階に臨むとともに、フェーズⅠで生じた課題やITを取り巻く新たな状況に対応するため、フェーズⅡプランを策定しました。

フェーズⅡからは、これまで積み上げてきたITのノウハウやe-PORTパートナー等のネットワークなどのリソースを活用しつつ、プロダクトアウトのアプローチからマーケットインの視点に重視した活動、つまり技術シーズやサービスありきではなく、まず市場が求めていることに重きを置いた取り組みを進め、地域産業の振興を図ります。



個別プロジェクトの進捗状況

北九州IoT推進ラボとしての活動

平成28年に選定を受けた北九州市IoT推進ラボは、e-PORT2.0の取り組みを広く発信するため、全国の事務局を務める独立行政法人情報処理推進機構(以下「IPA」)と連携した取り組みを進めました。IPAが企画した全国規模の展示会(P6下段参照)への出展や各地で行われる講演活動に参加し、北九州市での取り組みのPR活動を積極的に行いました。その効果として、全国からの問い合わせや視察につながりました。

平成30年4月からは、運営事務局がFAISに移管され、更にパワーアップしています。ものづくりの風土やロボット、AIといった革新的技術を取り込み、今後はより幅広く情報発信を行っていきます。北九州市IoT推進ラボのサイトにぜひご注目ください。

WEB ▶ <https://local-iot-lab.ipa.go.jp/lab?k=kitakyushu-city-iot>

BUSINESS REPORT

北九州から全国へ!

北九州での実証から全国へ進出できるよう、国のIoT推進ラボと連携し、段階的に事業拡大が果たせるよう支援します。



バッテリー監視システム「らくでんち」開発プロジェクト ステップⅠ

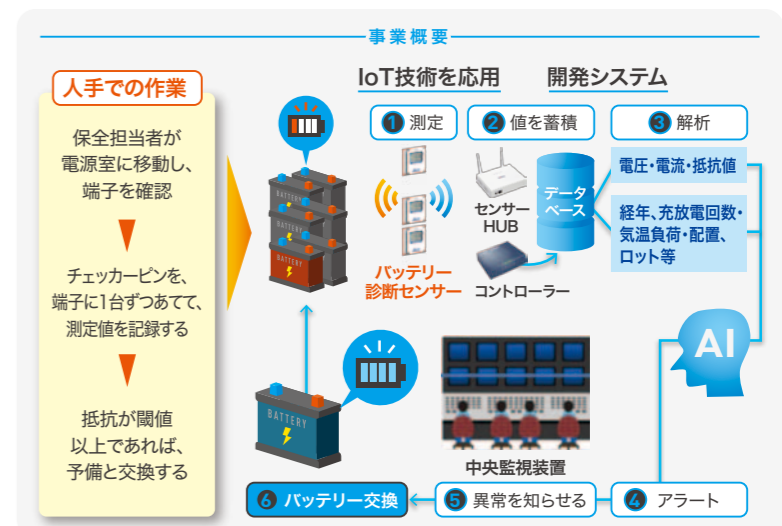
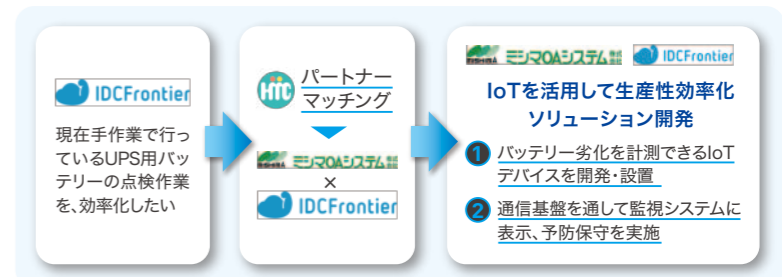
多くのデータセンターでは現在、無停電装置(UPS)内のバッテリーの点検業務を手作業で行っており、その効率化が大きな課題となっています。これに対応するため、課題を持ち込んだIDCフロンティアと地域のIT事業者であるミシマ・オーエー・システム(株)との協業により、本コンソーシアムを立ち上げ、IoTを活用したバッテリー監視システムを開発、さらには開発システムの市場展開を目指す取り組みを進めています。

主な取り組み内容

- ・PoC(概念実証)にむけて現地調査を実施し、導入効果を測定
- ・バッテリー監視システムを設計し有効性を判断

今後の対応

- ・テスト機を使用して実計測を行い、PoCを行った上で製品化を目指す。
- ・平成30年度からは、開発ステップ2として、バッテリー監視システム製品版の開発とIDCフロンティアの本稼働環境への実装を予定。



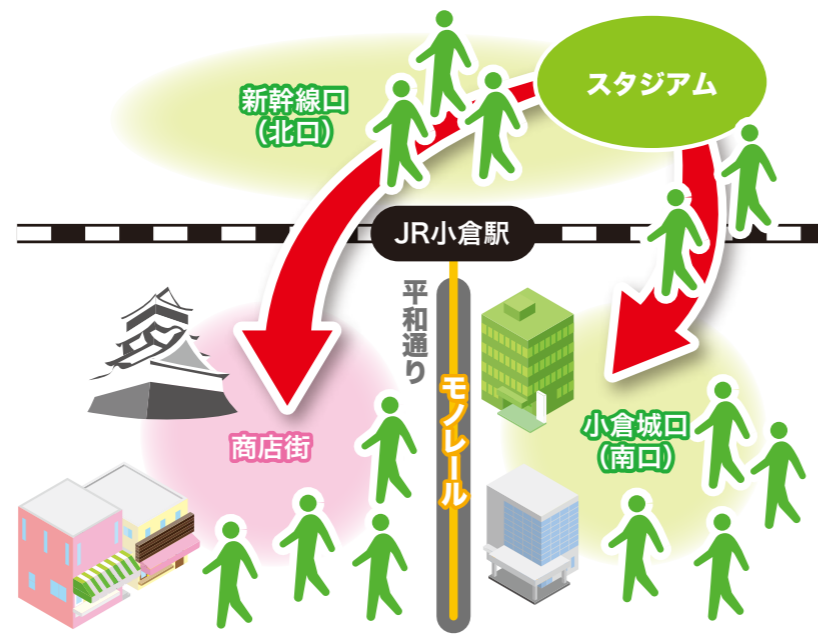
IoTによる業務効率化事例、IoT製品の市場展開ルールモデルとなるよう支援

開発ステップ1(平成30年8月まで)

- ▶ 現場調査・技術調査
- ▶ サービス提供形態のイメージ・モデリング
- ▶ 概念実証(実現可能であることを示すための簡易な試行)

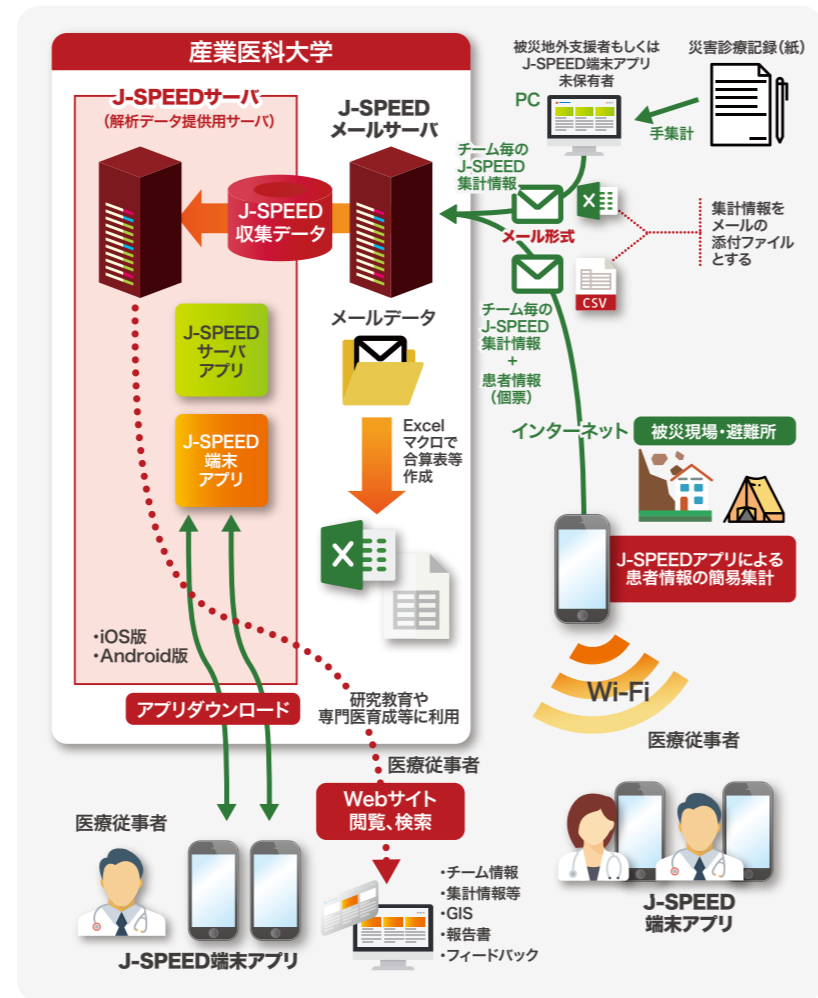
にぎわい創出実証

小倉地区のにぎわいを創出する基盤(にぎわい基盤)として、小倉駅周辺に設置されている歩行者系サイン等に、様々な情報を発信できるビーコンと歩行者の流れを測定できるセンサーを平成28年度に設置しました。平成29年度は、ギラヴァンツ北九州が保有するコンテンツと、ビーコンを活用したアプリにより、スタジアム周辺と小倉城口エリアの回遊性を高め、スタジアムに集まる人の流れを見える化することで生まれる新たなサービスモデルについてのフィールド実証を行いました。実証では、市内大型イベントとの連携による効果検証やアプリの機能拡充、センサー精度の確認(市が実施する通行量調査と連携した確からしさの検証)に取り組まれました。平成29年度で実証事業を終了し、今後は各社による事業展開を継続フォローしていきます。



北九州市へのJ-SPEEDサーバ誘致によるデータ活用事業

災害医療の分野においては、どんな疾病や症状の患者がどの救護所でどれくらい発生しているか、迅速に把握することが重要であり、課題でした。北九州の産業医科大学においては、国際緊急援助隊での豊富な活動経験をもとに、報告すべき疾病の標準化、システム化に積極的に取り組んでいます。こうして構築されたのが、災害時診療概況報告システム「J-SPEED」です。産業医科大学では、災害に強い北九州のデータセンターにこのJ-SPEEDのサーバ環境を構築し、事業拡大していくための検討を行っており、平成30年3月末までにクラウド環境構築のための要件定義や、諸準備、構築作業を完了させました。今後も北九州の「災害医療データセンター化」を全国的に働きかけていきます。



今後の取り組み内容

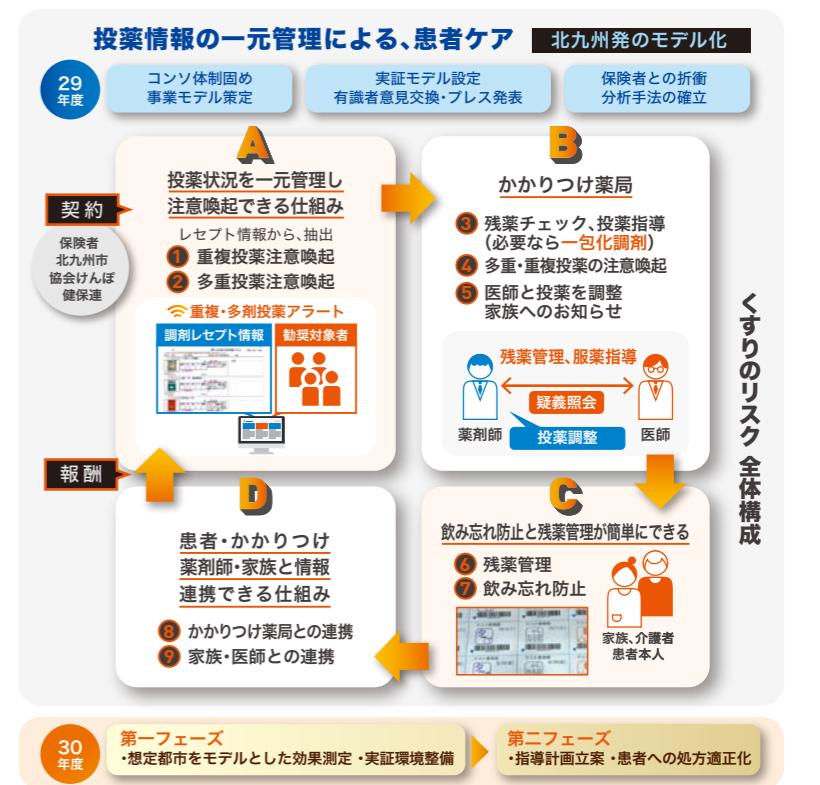
- ・DPAT(災害派遣精神医療チーム)への提供開始(4月~)
- ・事業拡大検討会実施中(6月~)

「くすりのリスク」コンソーシアム

近年、特に高齢者への処方薬の多剤投与や重複投与に起因する薬害(ポリファーマシー)が社会問題とされてきています。本事業では、ICTを活用して、患者の処方情報を本人や家族のほか、薬剤師を含む医療関係者が共有することで、投薬にかかわる患者のリスクを低減するとともに、保険者及び患者の医療費負担を低減することを目指します。

主な取り組み内容と成果

効果的に薬害に関するリスクを回避できるソリューションを目指して、ICT事業者、医療関係者・保険者からなるコンソーシアムを形成し活動を開始しています。今年度は、第一フェーズとして、重複投薬・多剤投薬・残薬削減を目指した事業モデルとサービスモデルについて検討し、このモデルが患者のポリファーマシーの解決に対してどのレベルまで解決が可能となるかの効果測定を行いました。また、本取り組みについて広く知ってもらうため、IJ社などコンソーシアムメンバー4社協業による報道発表を行うとともに、保険者や自治体と情報交換を行うための勉強会を開催しました。



農業×ICTプロジェクト

農業分野、とくに、個人農家や中小の農業法人には、まだまだICTが浸透していないのが現状です。このプロジェクトはICTを活用して中小農家の生産・経営を見える化するのと同時に、インターネットを介し、生産物を直接、地元の消費者にお届けするという、地産地消や顧客との強い絆を重視したマーケティングを行うことで、農家の経営安定化を図ります。

主な取り組み内容と成果

- ・アプリケーション開発と市場展開
- 「えいのうのいえ-1」営農日誌・収益見える化システムを事業主体者であるリンクソフトウェア(株)が開発しました。2月からは、コンソーシアムメンバーの3農家に実証利用いただいております。
- ・「えいのうのいえ-1・2」実用化事業
- 平成30年度からのサービスの市場展開を目標に、事業者支援を行うとともに、農業関連の展示会や広報活動を行うことで、初期の利用者を獲得に向けた取り組みを進めることができました。また、販路開拓計画を策定し、この計画に基づいて行動することで、スムーズな市場展開に向けた足掛かりとなりました。

*「えいのうのいえ」とは

家族経営などの中小の農家でも、スマホやタブレットから簡単に使えるアプリケーションであり、2つの機能を持っています。

- ・営農日誌&収益見える化ツール(えいのうのいえ-1)
- ・地産地消型の野菜流通支援ツール(えいのうのいえ-2)



EVENT

アグリビジネス創出フェアへの出展

日時 平成29年10月4日(水)~6日(金) 場所 東京ビッグサイト

「えいのうのいえ」のビジネス化などを目的として、アグリビジネス創出フェアに出展しました。
展示会での広報活動
 名称: アグリビジネス創出フェア2017 主催: 農林水産省
 会場: 東京ビッグサイト (会場費は農水省公募により無料)
 入場者数: 38,000名 (詳細説明: 128名)
初期利用者の獲得
 展示会等の広報活動によりリリース時点での初期ユーザを確保、生産管理ツール: 10社 流通支援ツール: 2社 販路連携: 1社 (商社) を獲得

人材育成の取り組み

新たなビジネス創出に向けて

IoT新時代! ビッグデータ活用セミナー



EVENT

IoT新時代! ビッグデータ活用セミナー

日時 平成29年8月31日 場所 ホテルクラウンパレス小倉

IoT新時代の到来に合わせ、データが創造する新たな価値とは何か、データを活用した新たなサービス(ビジネス)を創るにはどうすればよいかをテーマに、IoTに見識の深い講師をお招きして、基礎から様々な事例までを知ることができる「IoT新時代! ビッグデータ活用セミナー」を開催しました。

プログラム

- 講演1:IoTとは何かを知る ~データが創造する新たな価値~
株式会社 日立製作所 九州支社 企画部 部長 床島 俊治 様
- 講演2: 地方公共団体のオープンデータ、データ活用を推進するための取り組み
公益財団法人九州先端科学技術研究所 東 富彦 様
- 講演3:IoTでのビッグデータ活用事例 AIやPower BIを用いたIoTデータ分析
安川情報システム株式会社 マーケティング本部 IoTコンサルティング部 中田 佳孝 様
- BIツールセミナー:ビッグデータ分析事例のご紹介~【地方議会「見える化」計画】~
NECソリューションイノベータ株式会社 九州支社 マネージャー 大坪 恒樹 様



EVENT

わずか6時間でわかる! 初心者向け売上&データ分析ワークショップ

日時 平成29年10月 5日・12日・11月9日 場所 fabbit

ビッグデータ活用セミナーで紹介した内容を実践するため、IoT/ビッグデータ時代に必須となるデータ分析を初心者でもわかりやすく体験できるワークショップを開催しました。売上データや、オープンデータなど、様々なデータを活用する方法を学び、データ分析ツールの体験セミナーの他、チーム別にそれぞれのテーマに沿ってデータ分析、仮設立てを行い、分析に基づいた新しい企画やサービスを発表しました。

アイデアソン「IoT新時代のスマートシティの創り方」



EVENT

アイデアソン「IoT新時代のスマートシティの創り方」

日時 平成29年10月21日 場所 fabbit

国立研究開発法人情報通信研究機構(NICT)と共同で、日々の暮らしや企業活動において、IoT、ビッグデータ、AIなどの技術的ブレークスルーを活用できるテーマを選定して、IoT新時代のスマートシティへ向けた「アイデアソン」を開催しました。このアイデアソンでは、初めに福岡管区気象台様から気象データに関する最新情報やデータ活用の事例について紹介いただき、そのデータなどと、様々なIoTセンサーを組み合わせることによって生まれる新たなサービスの検討を行いました。検討のテーマである「2020年、北九州で実現し全国へ広めたい、自慢したくなる気象データとの意外な組み合わせによる快適な都市生活をおくるための理想のモノ・コト・サービスとは?」について参加者で議論を重ねた結果、「スマートランドリー」(コインランドリー稼働状況予測)や、「フードロス解消」(来客予測)など、10件以上のサービス案が集まりました。

九州工業大学PBLにて新たなサービスを開発



九州工業大学のPBL活動を通して、地元の大学生と地域企業のマッチングを図り、地域での人材育成、雇用、コミュニティ形成につながることを目的として、その活動を支援しました。

平成29年度は、自分の周囲の人に、質問を投げかけて回答してもらったスマホアプリケーション「こくらぶ(こくら+らぶ)」を検討しました。

実施期間:平成29年10月~平成30年3月 参加人員:学生8名、企業等メンター9名



次世代を担うICT人材の育成

楽しみながら、論理的思考力や創造力を育てる



ものづくりの街・北九州で、新しいデジタルものづくりの裾野を広げていくため、地域の大学と連携し、多くの可能性を秘めている子供たちを対象に、「夏休み!子どもデジタル教室」を開催しました。

論理的思考力や想像力を育てることを目的とした、最新のUVプリンターやレーザーカッターを使ったモノづくりや、オリジナルゲームを作るプログラミングを体験しました。

EVENT

夏休み!子どもデジタル教室 UVプリンター・レーザーカッター工作教室

日時 平成28年8月3日・4日 場所 西日本工業大学 地域連携センター

西日本工業大学と連携し、小学4年生から中学3年生を対象に、PCソフトでデザインした画像をUVプリンターやレーザーカッターを使用して加工する工作教室を初心者および経験者向けに開催しました。



夏休み!子どもデジタル教室 Scratchプログラミング教室

日時 平成28年8月17日・18日 場所 西日本工業大学 小倉キャンパス

西日本工業大学、西南女学院大学短期大学部と連携し、小学4年生から中学3年生を対象に、パズルを組み合わせるような感覚でプログラミングができるグラフィカルな言語「Scratch(スクラッチ)」を使ってゲームを作成するプログラミング講座を初心者および経験者向けに開催しました。



次世代を担うICT技術者育成をめざして



スマートフォンアプリやゲームのプログラミング作成など、最新のテクノロジーに触れることで、中学生や高校生の創造力や好奇心、考える力を育てます。ものづくりの楽しさを体験しながら、「創造する力」「つくる技術」を習得し、次世代のICT社会を担う若手人材の創出と育成を目指しています。

EVENT

中学生・高校生向けUnity プログラミング講座(3日間集中コース)

日時 平成30年2月10日・17日・18日 場所 fabbit

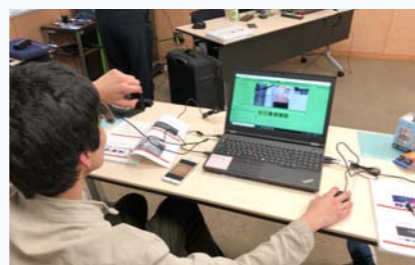
中学生・高校生を対象にスマートフォンゲームなどの制作現場でよく使われている「Unity」というゲームエンジンを使用して、プログラミング講座を開催しました。3日間の講座では、Unityの使い方を学習した後、各々が考えてきたゲームやアプリを制作しました。



中高生初心者向けプログラミング講座

日時 平成30年3月10日・11日 場所 九州ヒューマンメディア創造センター

中学生・高校生のプログラミング初心者を対象に、コンピューターはなぜ動くのかを知り、最新のAR体験とARコンテンツ開発を経験するプログラミング講座を開催しました。2日間の講座では、スマートフォンを用いてAR画像認識を活用してどのようなサービスができるのかを考え、スマホアプリを制作しました。



未来をひらくデジタルコンテンツ

「北九州デジタルクリエイターコンテスト」は、映像、CG、アニメ、静止画、WEB、インスタレーション、ガジェット、マンガ作品など、幅広いジャンルを受け入れており、多彩な作品が一堂に集まり、お互いを刺激しながら新たなムーブメントを生み出すことを目的としています。

「北九州デジタルクリエイターコンテスト2018」では“自由と平和と愛 Freedom, Peace and Love”をテーマとして、全国から数多くの作品応募があり、各ジャンルと審査員賞をあわせて9作品の入賞が決定しました。



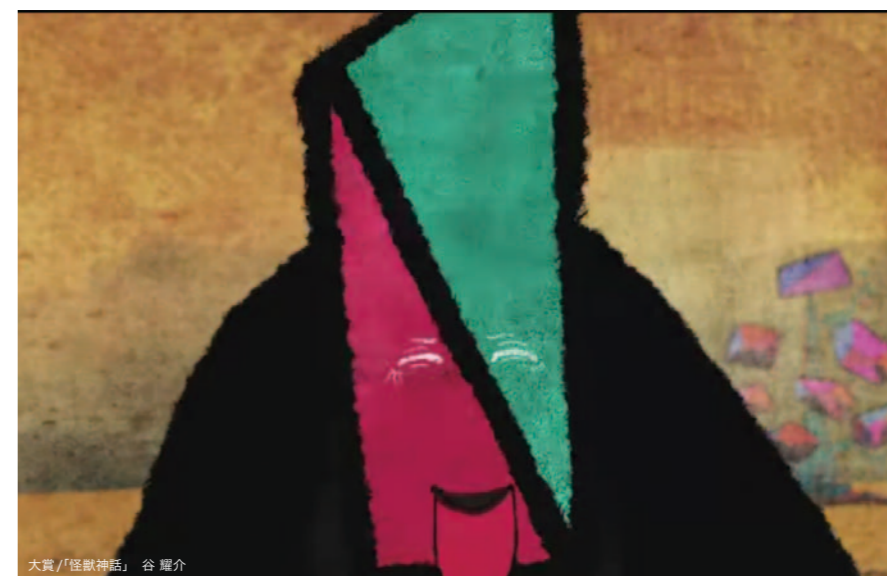
ジュニア賞/「まお」 田村 翠



ジュニア賞/「平和と愛につつまれた街」 伊藤 成生



ジュニア賞/「やさしい手に包まれて」 隈本 和陸



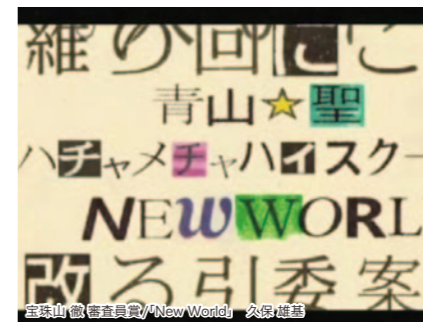
大賞/「怪獣神話」 谷 羅介



奨励賞/「大霊廟II」 安野 太郎



小林 茂 審査員賞/「群生地放送」 藤倉 麻子



香取山 敬 審査員賞/「New World」 久野 雄輔



中谷 日出 審査員賞/「TRUSTLESS LIFE」 加藤 明洋



北九州賞/「AYAKASHI WORLD」「YOUKAI WORLD」「妖怪ワールド」ミズ鬼ずム

